

令和6年9月定例会

令和6年度 行政視察報告書

議会広報特別委員会

議会広報特別委員会

1 視察期日

令和6年7月2日（火） 1日間

2 視察者

議会広報特別委員

委員長 針尾 直美

副委員長 松口 茂生

委員 綾香 良浩

委員 池田 稔巳

委員 山内 貴史

随行職員

議会事務局 書記

3 視察目的

議会だよりの企画と編集について、その他議会の広報活動について

4 視察地

福岡県久留米市議会

5 視察概要

別紙のとおり

議会広報特別委員会行政視察概要

議会広報特別委員会は、令和6年3月定例会において本委員会に付された閉会中の継続調査として、福岡県久留米市において視察研修を行なったので、その概要を報告する。

今回の視察目的は、「議会だよりの企画と編集について、その他議会の広報活動について」である。

1. 久留米市の概要

久留米市は、福岡県内で福岡市、北九州市に次いで第3の人口（令和6年7月1日現在300,604人）を誇る中核市である。

九州一の大河である筑後川や、市東部に東西約30kmに渡って山々が連なる耳納連山を有し、久留米市が位置する筑後平野は、米や麦、野菜、果樹などの生産が盛んな土地としても知られる。

江戸時代には久留米有馬藩の城下町、近代以降は久留米絣に代表される伝統工芸やゴム産業など「ものづくりのまち」として発展し、筑後地域商業の中心地となっている。また、その地理的条件から、古くより交通の要衝であり、現在も福岡県南地域の中心として鉄道やバス路線など公共交通網が充実している。

市内には300を超える医療機関があり、人口10万人あたりの医師数は、全国の政令市、中核市の中でもトップクラス。小児救急の医療体制も充実しており、子育てしやすいまちとしても高い評価を受ける。

2. 議会だよりの企画と編集について

(1) 市議会だよりの概要

デザインに関しては、表紙に久留米市民、久留米市グルメなど内容や時機を捉えた題材を採用し、手に取ってもらえるような洗練されたものとなっている。本文中も、文字余白や、写真・イラスト、表、段組みなどのバランスが適切にとられ、視覚的な配慮が施されている。

内容では、議案審査の経過についてQ&A形式で分かりやすく紹介。また、テーマを定めた議員間対談や、議員と学生（高校生）との対談を企画し記事にするなど、広い世代に議会に興味をもってもらうための仕掛けも充実している。

令和2年度から、タウン誌などの発行を手掛ける民間業者と企画編集業務に係る委託契約を締結し、同年8月号からレイアウトを刷新。民間業者の持つ柔軟な発想・視点・ノウハウ・技術を取り入れた「特集」「漫画」「学生の登場」などのコンテンツを開始し、市民が手に取り、読みたくなるような紙面づくりに取り組んでいる。

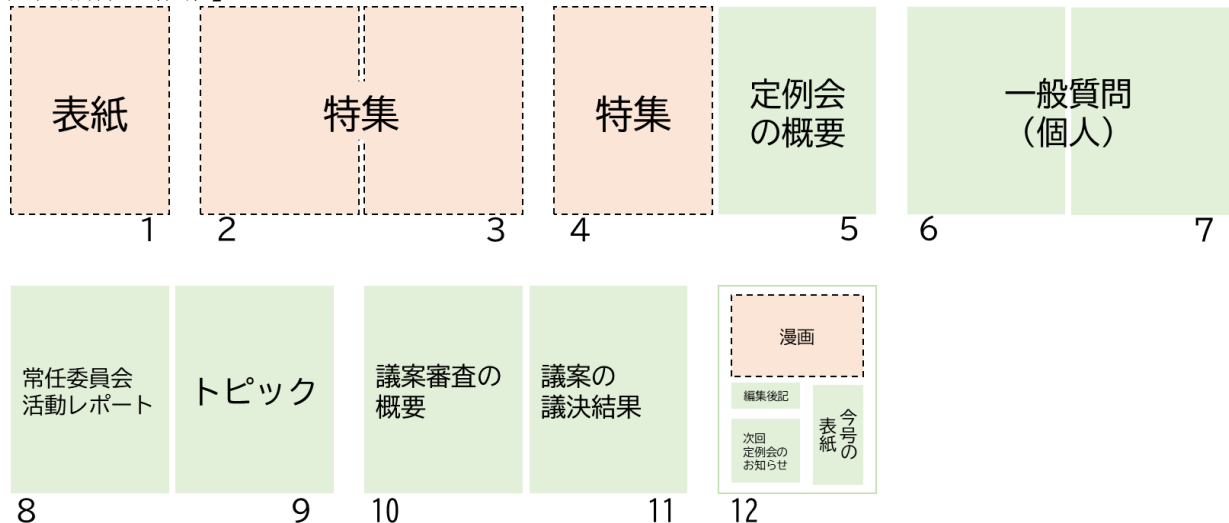
議会だよりの堅苦しさを感じさせない編集や、読みやすくわかりやすい紙面などが高く評価され、中核市議会議長会（人口20万人以上の全国62市が加盟）が主催する「議会報コンクール」において、第18回（令和5年度）に優秀賞、第19回（令和6年度）に最優秀賞を受賞している。

(2) 制作体制

会派から1人ずつ選出された6人の委員からなる議会広報委員会、議会事務局、企画編集業務を委託している業者の3者間連携により、紙面制作を行っている。

紙面の標準的な構成は下記例の通り。表紙・特集・裏表紙漫画欄（下記例破線部）は業者が担当、その他紙面は議会事務局がそれぞれ担当し作成する。議会広報委員会では紙面構成・特集ラフ、表紙テーマ、一般質問掲載項目（後述）などに対する意見を出し合うとともに、掲載内容の確認と決定などの役割を担っている。

【紙面構成（例）】



(3) 編集における留意点

「市議会をわかりやすく伝える」ことをコンセプトに、以下に心がけて編集する。

- 雑誌のようなデザインで
- 読みやすい平易な文字と文章で
- できるだけ文字を少なくし、「読みもの」としての特集を組む

(4) 特徴的なコーナー

① 毎号の特集（以下は一例）

- ・ 予算、決算審査に際して議会が注目した部分（委員長談話）
- ・ 市議会の仕組みと役割（議会事務局職員が解説）
- ・ テーマを決めた各会派議員の対談（子どもたちの30年後のために／新体制について など）

② 漫画の導入

- ・ 民間業者との業務委託による紙面リニューアルに伴い、「市議会議員のお仕事って？」をテーマとした漫画の掲載を開始し、議会の仕組みや、議員が普段どのような活動をしているのかをわかりやすく紹介

③ 学生の登場（なあぜなあぜ学生さん）

- ・ 市内高校生と議員が、「NGも付度もなし」でトーク会を実施。双方が投げかけられる質問に即興で答え、本音で語り、アイデアを出し合う中から、その一部を紹介するコーナー

(5) 発行までのスケジュール

【定例会前】

- ① 担当者間・事務局内で複数回、業者と1回の打合せ
→ スケジュール案、紙面構成案、特集ラフ案、表紙テーマ案の協議

【会期中】（一般質問通告の3日後、一般質問初日の2日前）

- ② 第1回目の議会広報委員会を開催
→ スケジュール、紙面構成案の確認
→ 事務局と業者で作成した「特集ラフ案」に対する意見交換
→ 表紙テーマ（何を撮影するか）を協議
→ 一般質問の掲載項目の決定（詳細は後述）

【閉会后】（発行日前月の初旬）

- ③ 第2回目の議会広報委員会を開催
→ 掲載内容の決定
→ 表紙写真の決定（第1回目の議会広報委員会での意見を受け、委託業者から数案提示してもらった中から選定）
- ④ 議会広報委員会が各会派に持ち帰り最終稿を確認
- ⑤ 色校
- ⑥ 印刷・発行

(6) 一般質問の掲載と編集方法

議員1人あたりの一般質問掲載の分量（久留米市議会では代表質問制も導入しているがここでは個人質問のことを指す）は、質問・答弁を合わせて、16～20字×7行程度であり、見開き1ページで全議員分を掲載するようにしている。

一般質問の原稿作成にあたっては、質問議員自ら2つの項目（通告書の中項目レベル）を選定してもらい、全体での質問分野（所管部局）ごとのバランス・市民の関心度という視点から、議会事務局において掲載する質問を1つ選定し、掲載に向けた要約を行う。その後答弁内容に誤りが無いか執行部側に確認してもらった上で議会広報委員会に提示し、協議・決定する。

なお、割愛した項目については、当該議員欄の末尾に「その他の質問 ●●について」と記載している。

3-1 その他議会の広報活動について（Facebook を活用した情報発信）

(1) 久留米市議会 Facebook の概要【令和6年7月1日現在】

- フォロワー数 453 人
- 投稿数 456 回
- 主な記事 本会議（会期や議事内容）／委員会の内容／正副議長の公務
市議会として参加した行事／行政視察（視察・受入れ）

(2) Facebook 導入の経緯

令和元年度に議会広報委員会にて「情報発信の充実」に関する議論に着手し、情報媒体を増やす手段としてSNSの活用を検討してきた。その結果、市民に対し議会に関する情報を広く発信し、議会をより身近に感じて感心を高めてもらうことを目的にFacebook ページを開設することを決定。令和3年6月1日から運用を開始した。

(3) 運用ルール

久留米市議会のページ運用方針及び利用規約（投稿するコンテンツ、コメントへの対応方針、禁止事項、免責事項等を明示）を策定し、これらに基づき運用を行っている。

3-2 その他議会の広報活動について（YouTube を活用した情報発信）

(1) 久留米市議会公式 YouTube チャンネルの概要【令和6年7月1日現在】

- チャンネル登録者数 192 人
- 動画本数 54 本
- 内 容 常任委員会の録画放送／議会の活動に関すること

(2) YouTube 導入の経緯

久留米市議会では、従来、常任委員会審査の様子はライブのみ公開しており、録画放送をしていなかったが、市民に対して開かれた議会を目指し、市議会の様子をより分かりやすく公開することで関心を高めることを目的に、YouTube を活用した常任委員会の録画放送を広報委員会で決定（議会運営委員会にも提案し承諾を受ける）。

久留米市議会公式 YouTube チャンネルを開設し、令和5年9月定例会時の常任委員会から録画放送を開始した。

(3) 運用ルール

チャンネル運用方針及びチャンネル利用規約（投稿するコンテンツ、禁止事項、免責事項等を明示）を策定し、これらに基づき運用を行っている。

3-3 その他議会の広報活動について（効果を高めるための工夫）

久留米市議会では、Facebook、YouTube の効率的な運用と、市民に対する周知啓発効果を高めるため、以下のような工夫を行っている。

内 容	対象媒体
事務簡略化のため、ある程度内容別にテンプレート化する	Facebook
記事にする際は、文のはじめに【 】で見出しをつける	Facebook
重ねた言い回しは避け、簡潔に読みやすい言葉を選ぶ	Facebook
<p>パワーポイント等を利用し、掲載写真にはテロップを入れる。複数の写真を組み合わせるなどデザインを編集する（写真のみでは映えないとのこと）</p> <div data-bbox="794 562 1110 954" style="text-align: center;"> </div> <p>※久留米市議会 Facebook ページに掲載された画像の一例 →</p>	Facebook
記事のシェアについては、議員個人にも協力を仰ぐ	Facebook
<p>動画を有効活用（動画は見られやすいとのこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議長新年あいさつ ・議長選挙後のメッセージ ・市議会 YouTube 公開開始の紹介 など <p>などに利用実績あり</p>	Facebook
<p>広報誌に Facebook の QR コードを掲載し誘導する一方、Facebook への投稿や、YouTube に投稿した動画の概要欄には、内容の詳細を記載した議会ホームページの URL を掲載するなど、クロスメディア方式を積極的に活用する</p>	Facebook/YouTube

議会広報活動に係る比較表

1. 市勢

(令和6年7月1日現在)

市名	平戸市	久留米市
人口	28,148人	300,604人
世帯数	13,615世帯	142,745世帯
面積	235.12 km ²	229.96 km ²

2. 議員数

市名	平戸市	久留米市	
議員	条例定数	18人	36人
	現員数	18人	36人

3. 議会広報誌の編集・発行、その他広報活動

市名	平戸市	久留米市
広報誌の編集を担う委員会等	議会広報特別委員会	議会広報委員会
種別	特別委員会	協議等の場
構成	委員5名、任期2年 原則各会派から1名、 正副委員長は互選	委員6名、任期2年 各会派から1名、委員長は互選、 職務代理者を委員長が指名
設置根拠	平戸市議会委員会条例 第6条 に基づく議会の議決による	久留米市議会会議規則 第159条 及び 久留米市議会広報委員会規程
議会広報誌発行回数	年4回(2・5・8・11月の各1日)	年4回(2・6・9・12月の各1日)
発行部数	13,300部/号 (全世帯、公共施設)	約110,000部/号 (全世帯、公共施設、市立高校等)
配布方法	自治会を通じて全戸配布	自治会を通じて全戸配布
編集会議(委員会開催数)	2~3回/号	2回/号
規格・ページ数	JIS規格 A4/平均16ページ フルカラー	JIS規格 A4/12ページ フルカラー
直近のリニューアル	令和元年5月号 (全ページフルカラー化)	令和2年8月号 (レイアウト・特集等の刷新)
予算(令和6年度)	①企画編集業務委託料 0円 ②印刷費(レイアウト調整含む) 2,248千円 ③送達業務費 (2,427千円の内数) ④編集用PC・ソフト使用料 0円	①企画編集業務委託料 3,080千円 ②印刷費(単価契約) 5,700千円 ③送達業務費(委託料) 2,450千円 ④編集用PC・ソフト使用料 246千円
議会広報誌の経緯	創刊 平成18年 (平成17年10月合併) ※令和6年7月現在: 第84号	創刊 昭和49年 ※令和6年7月現在: 第213号
利用しているSNS等	該当なし	Facebook YouTube

委員所感

針尾 直美 委員長

久留米市議会の議会だよりは、「読みやすく分かりやすい」、「用語解説にスペースを割く親切的な編集」などが評価され中核市議会議長会議会報コンクールで最優秀賞を受賞している。受賞するようになったきっかけは、令和2年、「市議会を分かりやすく伝える」ために「常識や既成概念を越えろ！」と全面リニューアルに取り組んだこと。その際に企画編集業務を民間業者に委託している。

実際に手にしてみると、「議会だより」と言う堅苦しさはなく、紙質も薄くやわらかで、読みものとしておもしろい特集が生まれ、文字が多くても会話形式ですんなり読み進めることができる。

一方、一般質問の記事は1人1問のみで、文字数が少なくコンパクトにまとめられている。そのほか市議会議員の仕事を漫画にして伝えるなど興味を引く工夫が随所に見られた。

どんないい内容でも、手に取ってもらえなければ何も伝わらない。どうすれば手に取ってもらえるのか、分かりやすく伝えるためにはどうすればいいか改めて考える機会となった。今後の編集作業に生かしたい。

松口 茂生 副委員長

今回、中核市議会議長会 議会報コンクールで最優秀賞を受賞した久留米市議会広報委員会での研修を行った。

久留米市議会広報委員会においても当委員会と同様に「市議会を分かりやすく伝える」を編集コンセプトに掲げていたが、大きく違う点は画像やイラストを多く取り入れ、より見やすい紙面となっていた。

さらに「市議会のお仕事って？」という題材で漫画も掲載し、なおかつ小学生でも読めるようにフリガナを付けるなどの小さな配慮は今後参考としたい。

また時代に合った広報活動として、市民に対し議会に関する情報を広く発信して、議会をより身近に感じて関心を高める為に、Facebook や YouTube を活用した取り組みを行っていた。本市においても議長等（委員会活動含む）の公式行事などを Facebook で伝えるなど活動をより多く市民の皆様に理解して頂くアイテムとしては有効と考える。ただそうなること事務局の業務増となり人員も含め他の課題もある事からもう少し研究も必要と思った。

綾香 良浩 委員

久留米市議会の広報誌は、余白の使い方、色合い、デザインなど広報誌として大変完成度が高く、「議会だより くるめ」の編集コンセプトを基に、誰もが見やすい広報誌づくりに努められていた。特に、新たな特集やコンテンツを活用することで、議会だよりの読みやすさに加え、新鮮さや目新しさなどの変化が加わることで、より市民の方に手に取ってもらえる広報誌へと繋がるものだったと思った。

また、久留米市議会公式SNS（Facebook）を活用した情報発信も行っている。市民の皆さんに議会をより身近に感じてもらうため、関心を高めてもらうための情報発信の充実が全国どの議会においても共通の課題である。媒体を増やすことは、多様な世代に議会からの情報を発信する手段として有効であり、紙の広報では難しい速報性においては、大変有効に活用できるものであると改めて感じた。

久留米市議会の情報発信に対する熱意や市民の方の目線に立った広報誌づくりの取組みなど平戸市議会の広報活動の充実に向けての参考としたい。

池田 稔巳 委員

この度、議会広報特別委員として久留米市議会を訪れ、久留米市議会広報委員会・議会事務局の皆さんから説明を受けた。

久留米市議会広報委員会では、特に、新人議員のユニークなアイデアを取り入れ、発想力豊かな委員長がまとめ上げる手法が印象的だった。

久留米市議会が発行する「市議会だよりくるめ」では、令和2年に企画編集業務を民間事業者へ委託しリニューアルするなど、画期的な改革がなされている。表紙の工夫はもちろん、議員一人ひとりの個性が見える様なページも見られ、市民が手に取って見たくなる紙面作りが感じられた。

その他、議会だよりに漫画を取り入れたり、学生達と意見交換を行い記事として掲載するなど良いアイデアだと感じた。

私たち平戸市議会広報特別委員会としても、市民が楽しみにしてくれるような議会だよりを目指し、市民モニター等をお願いしたりして意見を取り入れながら、今後の広報紙作りに生かしていきたいと思える研修となった。

山内 貴史 委員

久留米市では、年4回、毎号約11万部の議会だよりを発行している。実際に以前発行された市議会だよりを見せていただいたが、表紙からスッキリして見易く堅苦しきのない印象を受けた。また、市民や久留米の旬が紙面に登場し、学生への取材記事があったり、漫画の導入、議会HPへQRやURL誘導もされており、興味をそそられる内容であった。

実際には課題や、苦勞をされている現状もあるというが、企画編集業務を民間事業者に委託し民間のノウハウや技術を活用することで、市民が手に取り、読みたくなるような紙面づくりが可能であるという。

また、情報媒体を増やす手段として様々なSNSを活用していた。Facebookによる情報発信では、導入の経緯や記事の作成方法などをお聞きした。いずれも、議会を身近に感じ関心をもってもらうための工夫を凝らしている。

平戸市議会だよりも、個人的には充実した内容で見やすいと思うが、市民目線で手に取りやすく、関心をもってもらえるかどうかは別問題である。今後、研修の内容も参考にしながら、本市議会でも、よりよい議会だよりが発行できるよう考えていきたい。

以上、報告する。

令和6年9月2日

平戸市議会議長 松本 正治 様

議会広報特別委員会 委員長 針尾 直美

議会広報特別委員会行政視察



【研修の様子①】



【研修の様子②】



【集合写真】

他市議会が久留米を視察
～よお久留米に来らっしゃったね!～

7月2日 平戸市議会
【調査項目】
・議会だよりの企画と編集、その他の広報活動について



【久留米市議会Facebookより】